

私

私の目はガラスの義眼のように、動く能力を失った

*Kから [] を聞いたときとほぼ同じ

← 疾風のゴートく通過したあと

また [] と思った

|| もう取り返しがつかないという

[] が、私の未来を貫いて、全生涯をものすごく照らした

《私の名宛の手紙》

・ 予期したことは書かれていない

↓ まず [] と思った

・ もっと早く死ぬべきだのになぜ今まで生きていたのだろう

↓ 最も [] に感じた



[] を見た